第２回みえの学力向上県民運動推進会議を開催しました

第２回みえの学力向上県民運動推進会議を開催し、基本方針を踏まえたセカンドステージの主な課題解決の取組に対して、さらに工夫していく点や、新たに取り組んでいく点等について協議がなされました。

協議では、「子どもの問題は、大人の問題である。」等についての意見が出されました。

１　日時　　平成２９年３月１０日（金）１３時３０分から１５時００分まで

２　場所　　ＪＡ三重ビル　大会議室

３　内容

（１）知事挨拶

（２）みえの学力向上県民運動セカンドステージの取組について

・セカンドステージの主な課題を踏まえた取組について

・三重県家庭教育の充実に向けた応援戦略（仮称）最終案について

（３）協議

・基本方針を踏まえたセカンドステージの主な課題解決の取組に対して、さらに工夫していく点や、新たに取り組んでいく点等について

（みえの学力向上県民運動　基本方針　＜取組の視点＞）

①「主体的・協働的に学び行動する意欲」を育てます

②「学びと育ちの環境づくり」を進めます

③「読書をとおした学び」を進めます

協議での主な意見

・全ての大人が当事者意識を持って子どもを育てていくことが、子どもたちの社会を生き抜く力の育成につながっていく。

・学校・家庭・地域が目標を共有して同じベクトルで取り組むことが、求められている。子どもの問題は、大人の問題である。

・子どもたちが、毎日、笑顔で元気に過ごせるかどうかは保護者の子どもへの関わり方が大きい。保護者同士がつながり助け合えるネットワークが必要である。

・家庭が多様化するなか、子どもたちが前を向いて生きていけるよう、地域、社会全体で応援する必要がある。

・三重県家庭教育の充実に向けた応援戦略を着実に行っていくことが子どもや保護者の笑顔につながっていく。

・地域には、学校のために何かをしたいと考える人たちがたくさんいる。県でも、人材バンク等の登録制度があると、三重県内の共有財産として期待できる。また、コ

ーディネートをする組織があると、学校と地域の関係も強化でき、キャリア教育の充実にもつながっていく。

・子どもの貧困対策の視点からも、企業と学校の連携は重要である。例えば、給食への支援等が出来るのではないか。食べることをしっかりする。食育から始まっていく。貧困対策に、企業が持っているノウハウなどを活用してほしい。

・子どもが幸せを感じるためには、大人も本を読み、子どもの思いに耳を傾ける大人でありたい。

・本を読むことで、本の中で、別の人生を体験し、新しい想像力が生まれる。この想像力が子どもたちの学習につながる。

・平成２８年度の全国学調では８教科中３教科が全国平均以上となった。子どもたちに芽生えてきた「やればできる」という思いが形になってきており、一歩前進した。今後も、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの「やればできる」という気持ちを応援していかなければならない。そのためにも、県民運動の重要性がますます高まっているといえる。

・子どもたちが豊かな人生を送れるよう、我々大人が励まし、つながり合わなければならない。セカンドステージの取組を実行、検証、改善しながら、子どもたちの幸せを現実のものとしていきたい。

（４）三重県教育委員会　教育長挨拶

４　今後の取組

推進会議で出された意見を踏まえ、多くの大人が子どもたちに関わることができるよう、地域で子どもたちを支える体制づくりや県内企業や各種団体等との連携等に一層重点的に取り組んでまいります。

そのためにも学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」の取組を推進していきます。